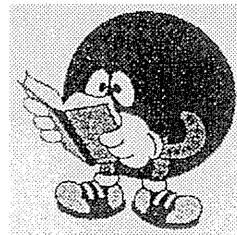


ササキ

人に、環境にやさしい

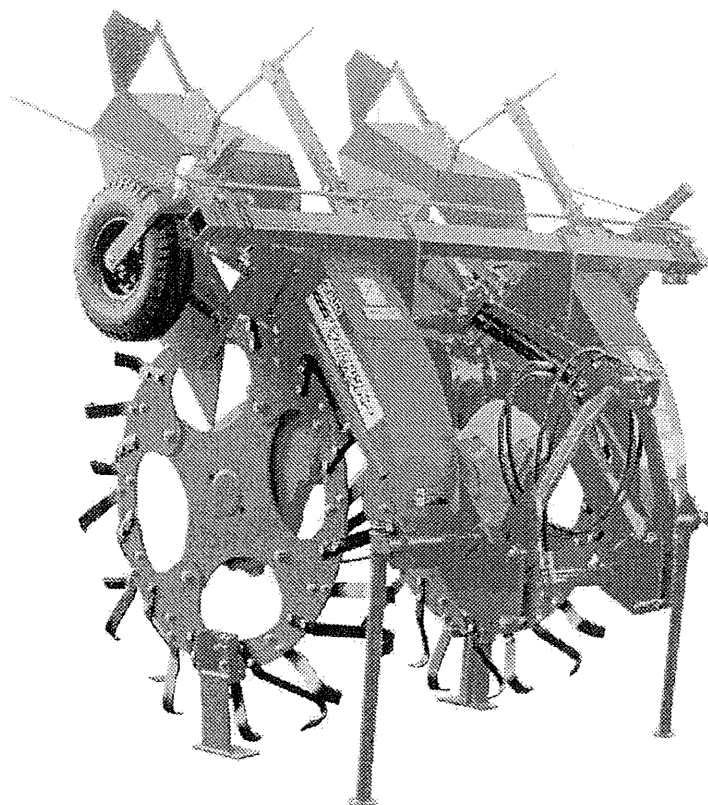


取扱説明書

ホイールレンチ

HT7110

HT7120



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。

誤った使い方をすると事故を引き起こすおそれがあります。

ご使用前に必ずお読みください。お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔


目 次

はじめに	1
安全に作業するために	2
安全銘板の貼り付け位置	8
保証とサービスについて	
◎保証書について、アフターサービスについて、補修用部品の供給について	9
各部の名称	10
装着前の準備	11
スタンドの取付方法	12
ゲージホイールの取付幅調整方法	14
トラクタへの着脱方法	
取り付け方	12
取り外し方	12
ユニバーサルジョイントの切断方法	16
点検・調整	
給油個所と給油量	17
廃油処理について	18
チェーンの点検・張り調整	19
作業前の調整	20
運転・耕うん作業について	
移動と圃場への出入りのしかた	21
作業上の注意	22
作業のしかた	23
耕うん作業方法	24
作業条件に応じた各部の調整	25
ユニバーサルジョイントの安全装置	27
保守管理について	28
消耗部品一覧	28
トラブルの原因と処置方法	29
主要諸元	30

ササキ商品をお買い上げいただき

誠にありがとうございます。

はじめに

- ◎ この取扱説明書は、ホイールトレンチャーの取扱方法と、使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書を熟読するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でお使いください。
- ◎ ホイールトレンチャーは長いもやごぼう等の床作りをする機械です。その他の目的で使用しないでください。
- ◎ お読みになった後は必ず製品に近接して保管してください。
- ◎ 本製品を貸与又は譲渡された場合は、この取扱説明書を商品に添付してお渡してください。
- ◎ この取扱説明書を紛失又は損傷された場合は、速やかに当社又は当社の特約店・販売店にご注文ください。
- ◎ なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本商品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ◎ ご不明なことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお店、又はお近くの特約店・販売店・農協にご相談ください。
- ◎  印付きの下記のマークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



危険

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを意味します。



警告

この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを意味します。



注意

この警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを意味します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れのあるものをあらわします。

参考

その他、使用上役にたつ補足説明をあらわします。

- ◎ この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

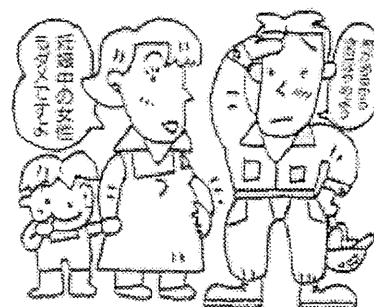
安全に作業をする為に

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み、ご理解いただいたうえで安全な作業を行ってください。安全に作業するためにぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「**▲** 警告サイン」として説明のつど取り上げております。

◎一般的な注意事項

▲ 警告 こんな時は作業しない

過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
酒を飲んだとき。
妊娠しているとき。
18歳未満の人。

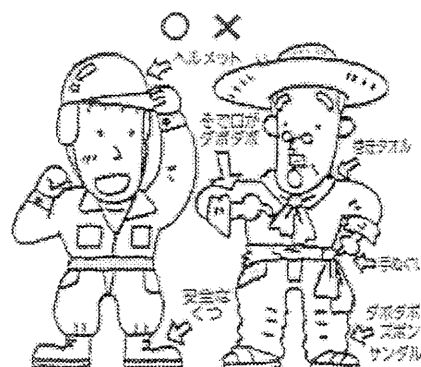


▲ 警告 作業に適した服装をする

はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などをつけ、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。

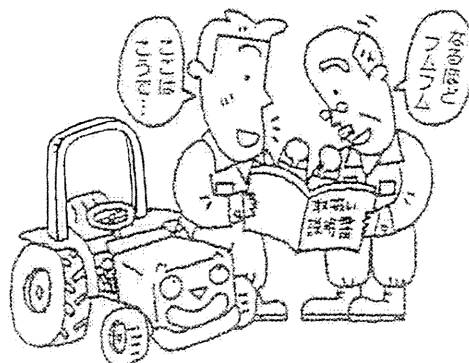


▲ 警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の損傷をまねくおそれがあります。

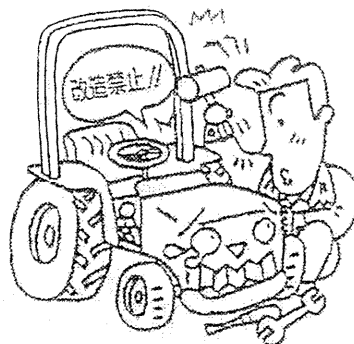


⚠ 注意 機械の改造禁止

純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。



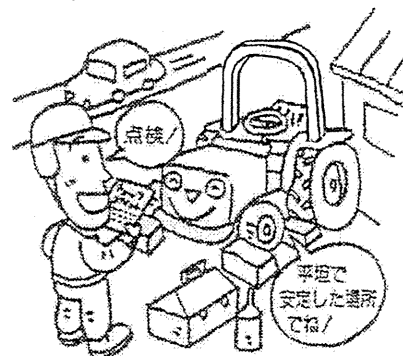
◎作業の前に

⚠ 警告 始業点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、トラクタの前輪には車止めをして点検整備してください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

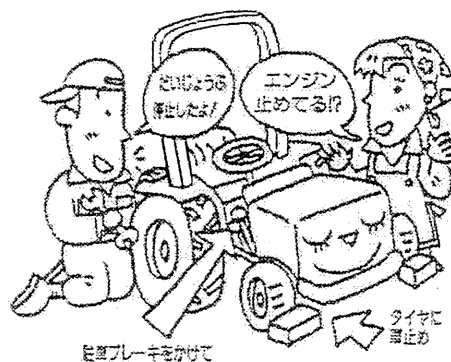


⚠ 警告 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



⚠ 注意

◇作業の前には点検・整備を行ってください。

◇各部のボルト・ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。

◇カバー類を外したら、必ず取り付けてください。

◎トラクタへの着脱

⚠ 危険 運転時はジョイントカバーを外さないでください

【守らないと】

ジョイントに巻き込まれて傷害事故を起こすおそれがあります。

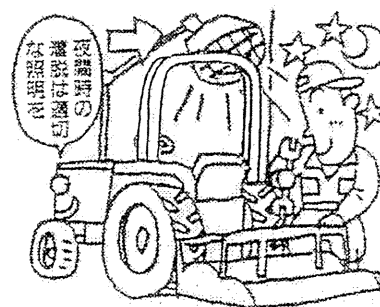


⚠ 警告 作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は平坦で安定した場所で行なってください。
夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



⚠ 警告 作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。

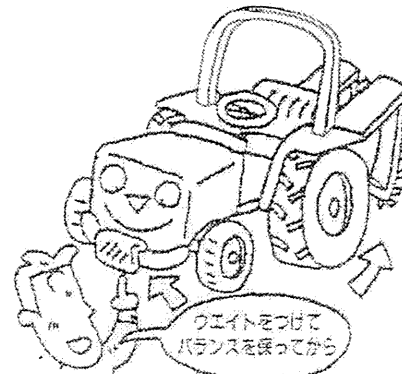


⚠ 警告 重い作業機をつけるときはウェイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウェイトをつけてバランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩して事故を引きおこすおそれがあります。



⚠ 注意

- ◇トラクタから離れるときはエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてP T O変速を中立にしてください。
- ◇2人以上で着脱を行なう場合は、互いに合図を確認しあって作業してください。
- ◇ユニバーサルジョイントの止めピンが確実に軸溝にはまっているか確認してください。
- ◇取り付け部のピンがすべて確実に装着されているか確認してください。

◎路上走行

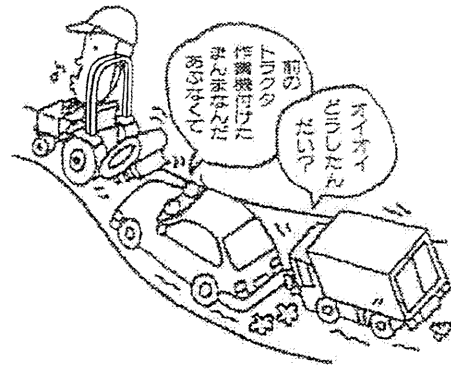
⚠ 注意 公道走行時は作業機の装着禁止

公道を走行するときは、作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路運送車両法違反です。

事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

- ◇トラクタ、作業機に運転者以外の人を乗せないでください。
- ◇作業機の回転を止めて走行してください。
- ◇トラクタの落下速度調整ハンドルを回して必ず油圧ロックをしてください。
- ◇旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。
- ◇作業機を装着した時機体寸法が大きくなるので、移動走行時は十分注意してください。
- ◇溝のある農道や両側が傾斜している農道では路肩に十分注意して移動してください。

◎圃場の出入り

⚠ 注意

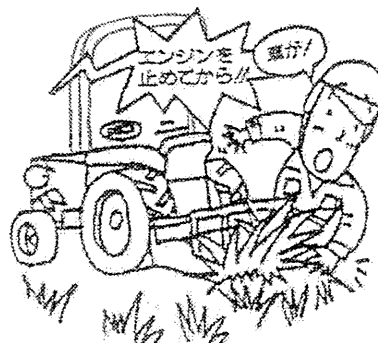
圃場に入るときは、必ず前進で速度を落とし、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。畦や段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。

◎作業をしているとき

▲ 警告 回転部（ツメ・刃、軸等）に巻き付いた草等を取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。

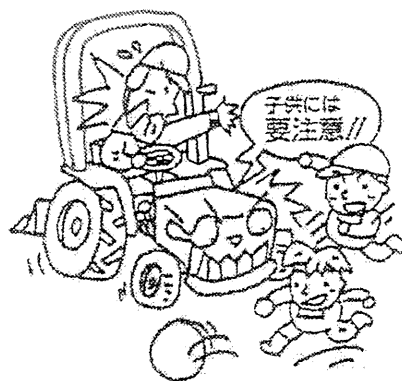


▲ 警告 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

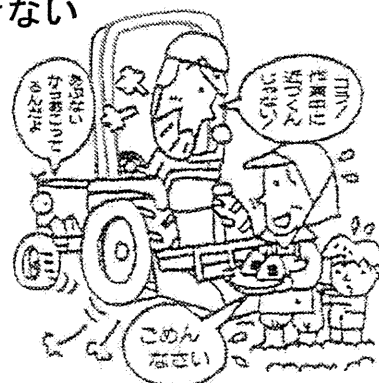


▲ 警告 トラクタと作業機の周辺に人を近づけない

トラクタを移動して作業機を着脱するときは、トラクタの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

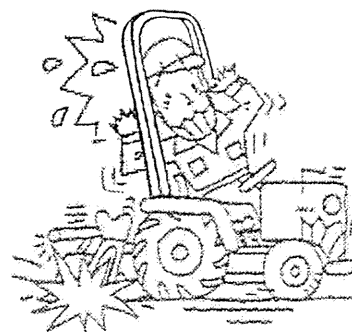


▲ 警告 作業機指定のPTO回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。
作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起こします。



⚠ 注意

- ◇補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。
- ◇回転部分や動くところには触れないでください。

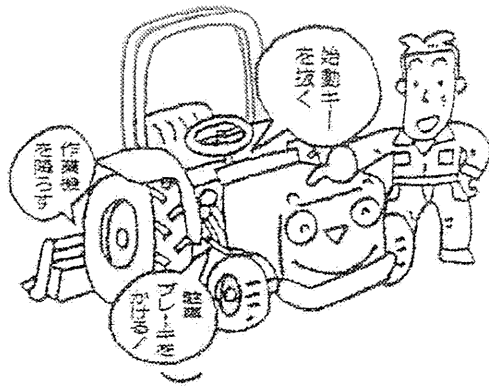
◎トラクタを止めるとき

⚠ 警告 機械から離れるときは作業機を地面に降ろしてエンジンをとめる

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



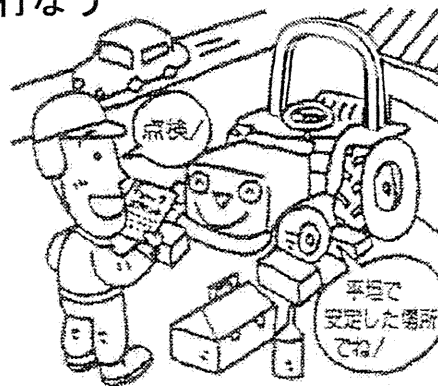
◎点検や格納のとき

⚠ 警告 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



⚠ 注意

- ◇点検、整備時はトラクタのエンジンを止めてください。
- ◇機械の下にもぐったり、下で作業しないでください。
- ◇キャスターなど付いている場合、車止めをして作業してください。

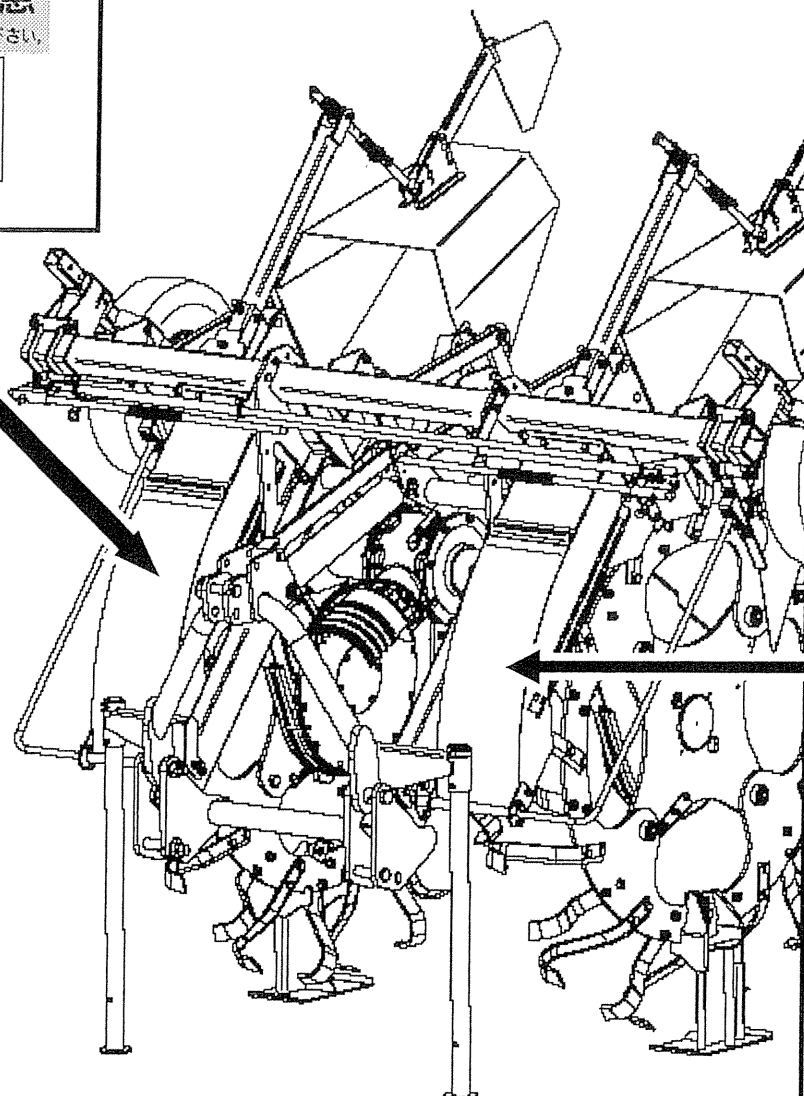
安全銘板の貼り付け位置

作業中接近注意

●作業中は1m以内に接近しないで下さい。

W47-691200-0

ラベル(セッキンチュウイ)

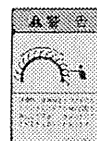


注意

●安全銘板を破損して、はがれた場合は、上記番号・名称にて手配のうえ、貼り直してください。
●新しい安全銘板を貼る場合は、汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

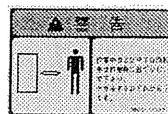
0000-03300

PLラベル(チュウイリアツカイ)



0000-02460

PLラベル(ケイコセイソウ)



0000-02330

PLラベル(ケイコクサキョウ)



0000-02340

PLラベル(ケイコクロワリソク)



0000-01210

PLラベル(キケンジョイント)

注意

- 安全銘板が破損した場合、はがれた場合は、上記番号・名称にて手配のうえ、貼り直してください。
- 新しい安全銘板を貼る場合は、汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

保証とサービスについて

◎保証書について

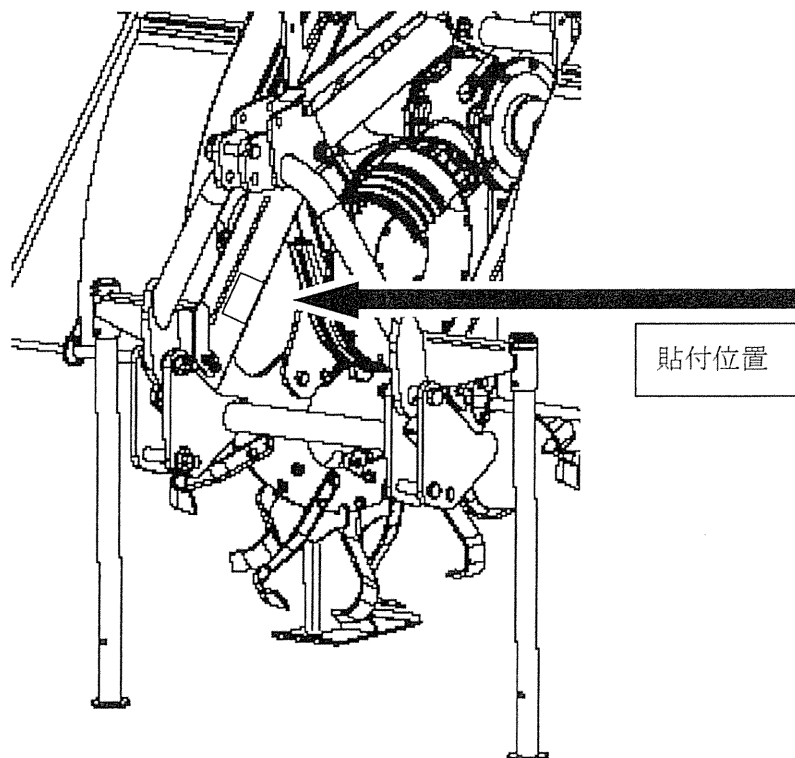
『保証書』は、お客様が保証修理を受けられる際、必要となるものです。
お読みになった後は、大切に保管してください。

◎アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点など不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店等にご相談ください。

《ご連絡いただきたい内容》

- ◇ 型式名（機体銘板に明記してあります）
- ◇ シリアル番号（機体銘板に明記してあります）
- ◇ ご使用状況は？
（どのような作業をしていたときに？）
- ◇ どのくらい使用しましたか？
（約何アール又は約何時間使用）
- ◇ 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくおしらせください。



機体銘板（例）

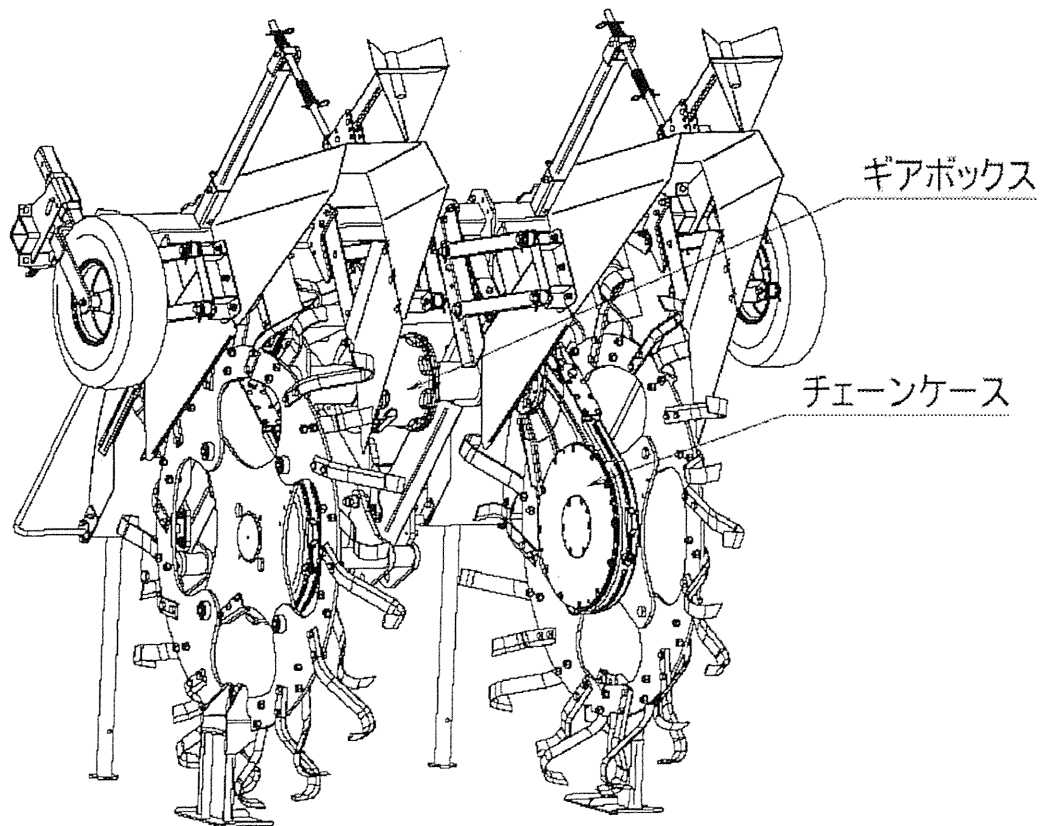
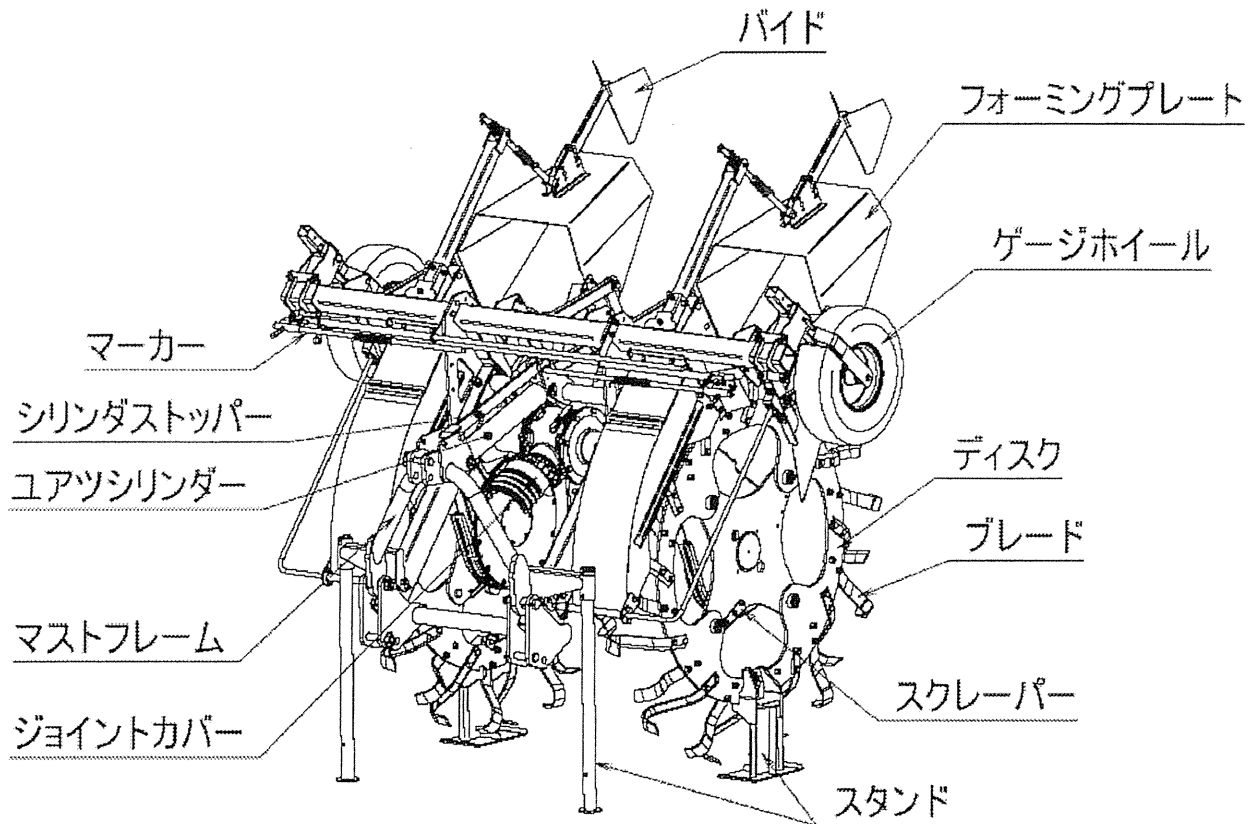


貼付位置

◎補修用部品の供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限は、製造打ち切り後9年です。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期をご相談させていただく場合もあります。

各部の名称



装着前の準備

1. 各部のボルト・ナットの緩み、ピン類の脱落がないか、確認してください。
ある場合には、増し締め、組み付けを行ってください。

注意

- 作業中にボルト、ナット、ピン等が外れますと、作業機の破損ばかりかトラクタの破損、人身事故につながる恐れがあります。

2. 作業機を装着すると機体の長さ・幅が大きくなり重量バランスが変わりますので確認のうえ、必要に応じてフロントウェイト等を取り付けてください。
特にクローラトラクタの場合は、ホイールトラクタに対しフロントウェイトが多く必要になります。

警告

- 適応トラクタの範囲内で使用してください。適応範囲以内のトラクタであっても、発進時・登坂時に、トラクタの前輪が浮き上がる場合には、必ずフロントウェイト等を、取り付けてください。守らないと転倒等の事故で、死傷する恐れがあります。
- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。守らないと作業機が動いて、死傷事故を起こす恐れがあります。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に、入らないでください。挟まれて死傷する恐れがあります。

3. 本機の装着は、日農工規格で装着する方法を採用しています。本機を装着する際は、トラクタの3点リンクに取り付けてください。

危険

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。
- 機械の下に潜り込んでの作業はしないでください。死傷事故を起こす恐れがあります。

警告

- 2人以上で作業するときは、お互いに合図をし、確認しあって作業してください。特にトラクタのエンジンをかける時や、エンジンが作動している間は、十分に注意してください。守らないと思わぬ事故に、つながる恐れがあります。

注意

- 装着時は、トラクタのPTO変速を中立にしてください。

スタンドの取付方法

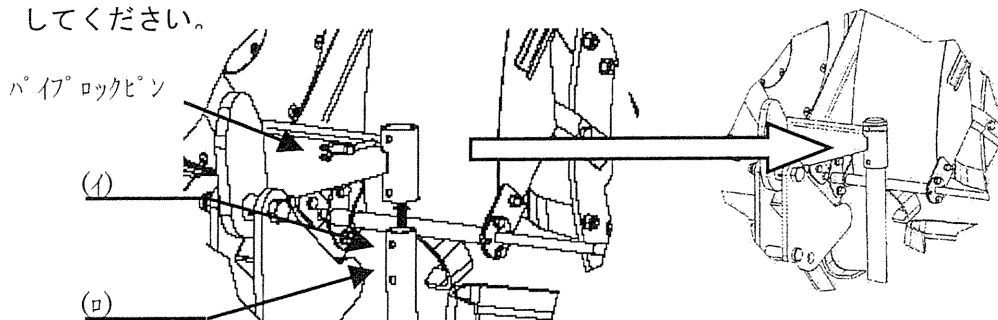
⚠ 警告

- 作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。守らないと作業機が動いて、死傷事故を起こす恐れがあります。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に、入らないでください。挟まれて死傷する恐れがあります。
- 組立作業する時は、平坦で固い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

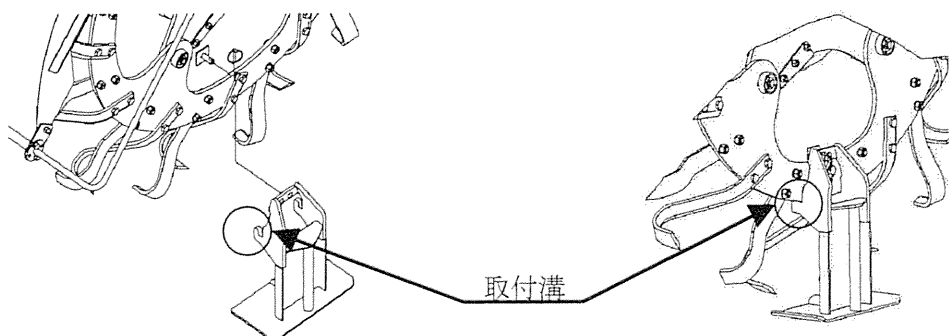
⚠ 注意

- スタンドを取り付ける時は、手を挟まないように注意してください。

1. スタンドの上から2番目（標準）の穴(ロ)へ、ピンを差込スタンドを固定してください。3点リンクの下がりが少ないトラクタの場合は、1番上の穴(イ)を使用してスタンドを取り付け固定してください。



2. 3点リンクを上げた状態でホイール部を、スタンドブラケットの取付溝に合わせて、スタンドブラケットのピン差込穴がホイール空間部から見えるようにスタンドブラケットを持ち上げます。



3. スタンドピンを差し込んで、リンチピンでしっかりとロックしてください。

⚠ 危険

スタンド及びスタンドピンが確実に入っている事を確認してから次の作業をしてください。守らないと死傷事故を起こす恐れがあります。

4. 作業機をトラクタから外すときは、スタンドが確実に地面に接地していることを確認してから着脱を行ってください。接地していない場合はスタンド穴位置、トップリンク長さ等を調整し、再度、接地していることを確認してから作業機の着脱を行ってください。

ゲージホイール取付幅の調整方法

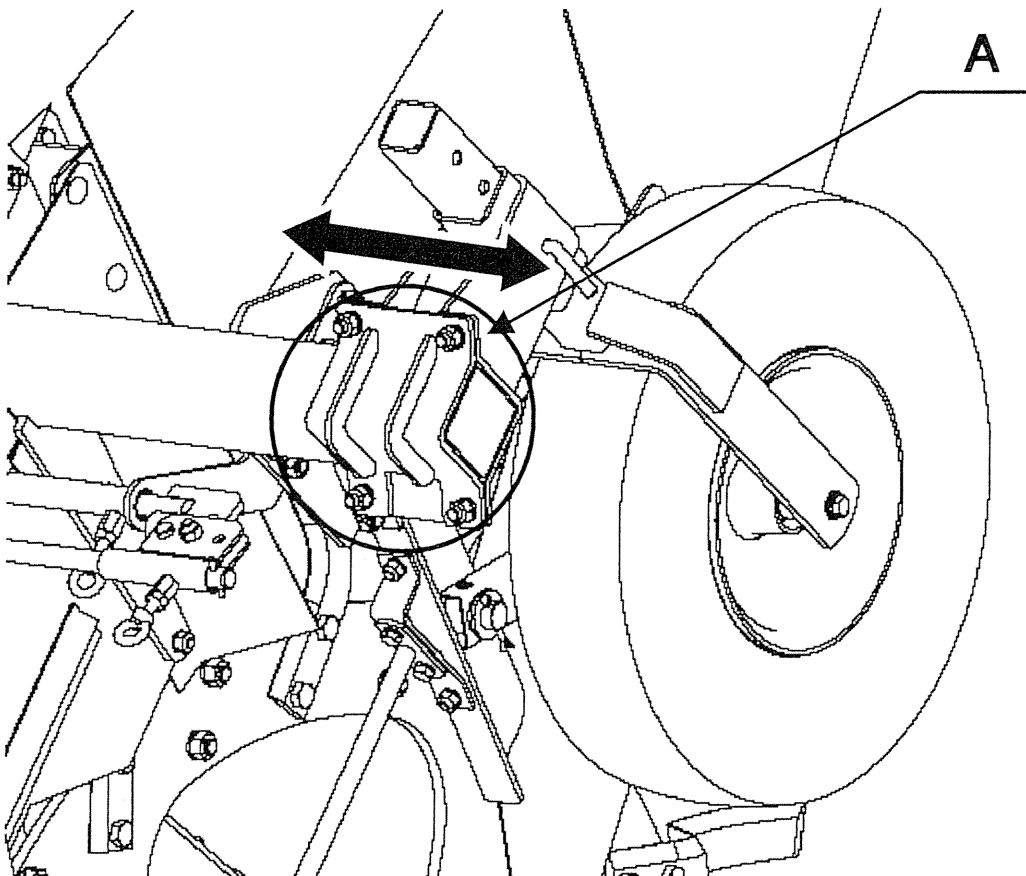
▲ 警告

- 作業機の各調整は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。守らないと作業機が動いて、死傷事故を起こす恐れがあります。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に、入らないでください。挟まれて死傷する恐れがあります。
- 組立、分解、調整作業する時は、平坦で固い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

ゲージホイールは、条間（うね幅）に合わせセットしてください。

調整方法

1. 取付ナット A（4ヶ所）をボルトネジ端部と同一面までゆるめてください。
2. 条間（うね幅）の中心と同じ位置になるように、サブフレームの角パイプ上でスライドさせて位置を決めてください。
3. 取付ナット A を右に回して締め込んで確実に固定してください。
4. 再度、調整したボルト・ナットにゆるみがないか確認してください。



トラクタへの着脱方法

I 装着方法

(作業前には、必ずエンジンを停止してください)

⚠ 警告

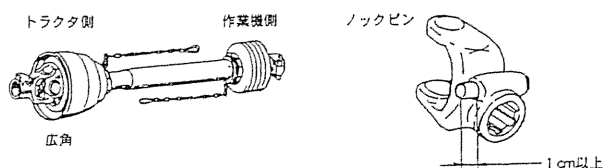
- 装着作業する時は、平坦で固い場所で行ってください。2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

1. 周りに人や動物がいないことを確認してから、エンジンをかけ3点リンクを油圧レバーで下げて、本機のマストに向かってゆっくり後退させてください。
2. トラクタの3点リンクに、左ロワリンク、右ロワリンク、トップリnkの順に取り付けてください。
3. トラクタのエンジンを停止しシリンダの油圧ホースカプラをトラクタ外部油圧取り出しに接続してください。
4. ユニバーサルジョイントを取り付けてください。

ユニバーサルジョイントは広角側をトラクタ側へ、シャープボルト側を作業機側となるよう取り付けてください。

重要

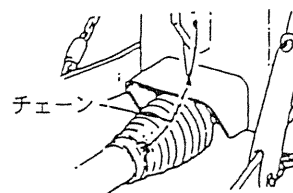
ユニバーサルジョイントの広角側を作業機側へ取り付けるとジョイントの破損になります。



⚠ 危険

- ユニバーサルジョイントを取り付けるときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。

5. ユニバーサルジョイントに付属しているチェーンをトラクタ及び作業機に取り付けて、カバーの回転防止をしてください。



重要

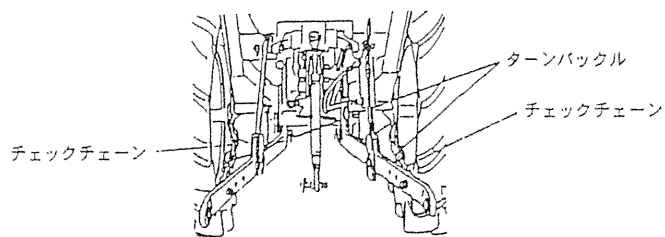
トラクタによってユニバーサルジョイントの長さが合わない場合があります。その時には次項の[ユニバーサルジョイントの切断方法\(16ページ\)](#)をお読みください。

6. トラクタのエンジンをかけ3点リンクをゆっくりと上げ、パイプスタンドとディスクスタンドを取り外してください。
7. 3点リンクをゆっくりと上げ、本機の油圧シリンダをゆっくりと縮めトラクタと干渉しないことを確認してください。

⚠ 注意

- 長さ調節が終わったら、必ずトップリnkのロックナットで、ロックしてください。守らないと、ネジが外れて事故を起こす恐れがあります。

8. 本機を少し持ち上げ、PTO軸、ジョイント及び入力軸が、トラクタの中心線上にあるようにチェックチェーンを、左右均等に張ってください。その後左右のチェックチェーンの、ターンバックルを0.5～1回転くらい逆に戻し、ロックしてください。



II 取り外し方（作業前には、必ずエンジンを停止してください）

1. 平坦で固い場所を選んでください。その際周りに人や動物・障害物がないことを確認してください。
2. 本機の油圧シリンダをゆっくりと縮めてください。その後シリンダーストッパーを取り付けます。
3. 左右のスタンドブラケットへスタンドを取り付けてください。確実にスタンドが固定されているか確認してください。**スタンドの取付方法 1 2 ページ**
4. 左右のディスクへ、スタンドを取り付けてください。確実にスタンドが固定されているか確認してください。**スタンドの取付方法 1 2 ページ**
5. 3点リンクをスタンドが地面に着くまでゆっくりと下げてください。スタンドがすべて接地していることを確認してください。
6. トラクタのエンジンを停止しユニバーサルジョイントを外してください。
7. トラクタ外部油圧レバーを2,3回動かし油圧シリンダ内の残圧を抜き油圧カプラを外してください。
8. トップリンクを外し、左右ロワリンクを外してください。

⚠ 危険

- ユニバーサルジョイントを取り外しするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。
- 機械の下に潜り込んでの作業は行わないでください。死傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 警告

- 脱着作業をする時は、平坦で固い場所でおこなってください。2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

⚠ 注意

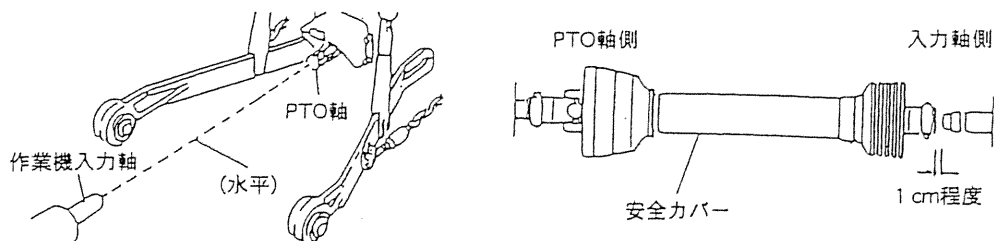
- 周りに人や動物・障害物がないことを確認してから作業してください。

ユニバーサルジョイントの切断方法

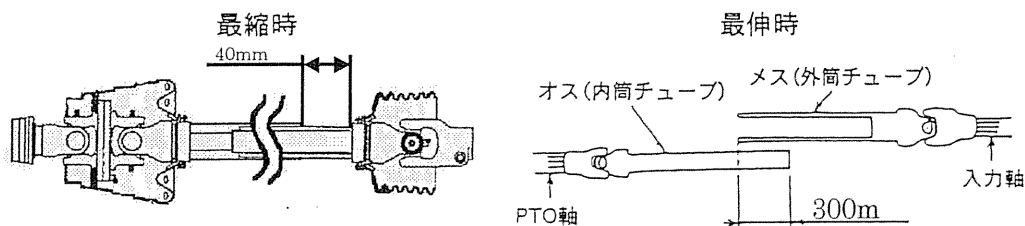
ユニバーサルジョイント（以下ジョイント）の長さは、必ず適正長さの範囲内で使用してください。短すぎるとジョイントが抜けて思わぬ事故につながり、長すぎると機械を破損してしまいます。短い場合は交換し、長い場合は切断し使用してください。

◎適正長さの確認

トラクタPTO軸と作業機の入力軸が水平で一直線上にある時が、ジョイントが一番短くなる時です。この時に1cm程度スキマがあればそのまま使用できます。



また、ジョイントのオス・メスを外して、それぞれPTO軸と入力軸に取り付け、水平で一直線上にあたる時（最縮時）に、下図のスキマが40mm以上あり、作業機を上下させてジョイントが1番伸びた時（最伸時）に、オス・メスの重なりが300mm以上あると、適正長さの範囲です。



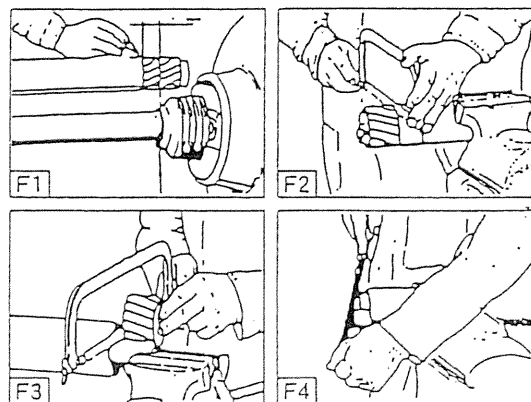
◎切断方法

F 1. ジョイントのオス・メスを外して、トラクタと作業機の最短の作業位置に合わせ、相手側の安全カバーの筒の端から、40mmスキマがあく位置に、オス・メスの安全カバーへそれぞれ、マークをつけてください。

F 2. オス・メスの安全カバーに、マークをした長さだけ、安全カバーを切断してください。

F 3. オス・メスの内外筒チューブを、安全カバーを切断した部分と、同じ長さだけ切断してください。

F 4. 切断後は切り口にヤスリをかけ、バリ、切り粉を除きスムーズにスライドできるようにしてください。



点検・調整

⚠ 注意

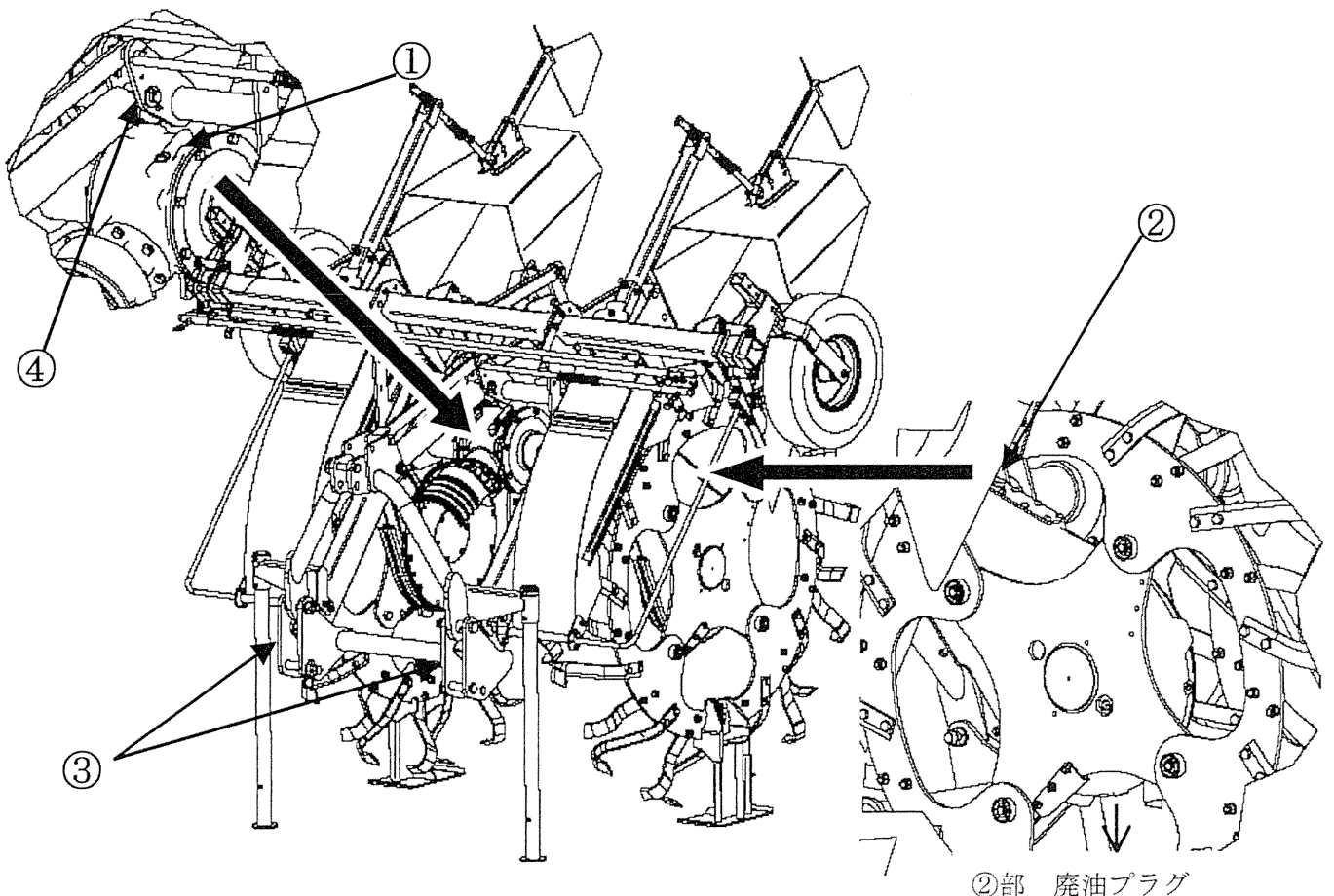
- 点検・調整時には必ずエンジンを停止してください。守らないとけがををする恐れがあります。
- 周りに人や障害物が無いことを確認してください。
- トラクタのエンジンをかけるときには、周りに人がいないことを確認してから行ってください。

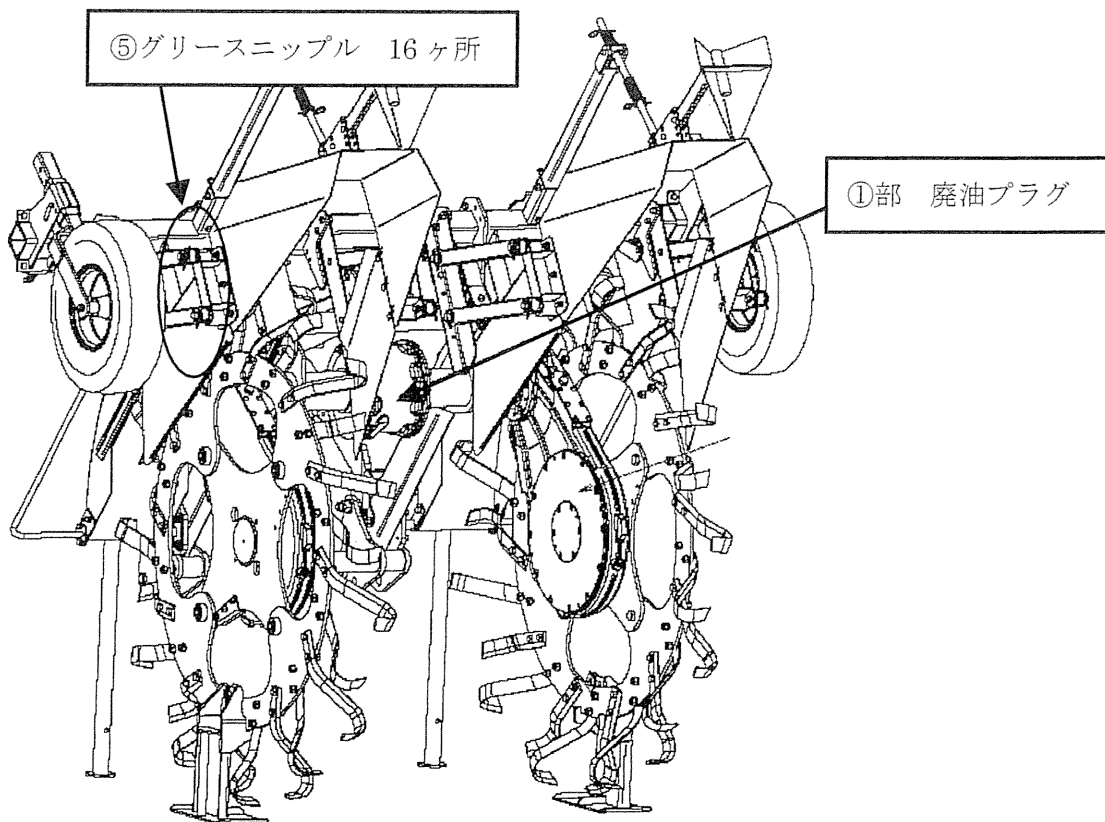
- I. 作業前にボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないことを確認してください。
- II. 給油、オイル点検。

本機は工場出荷時に給油して出荷されますが、下表に基づいて給油を行ってください。

給油はギヤオイルの#80または#90を使用し、全量交換してください。

給油箇所	油種	給油量	交換時期
①ギヤボックス	オイル	2ℓ	初期 20 時間 以降、100 時間毎
②チェーンケース	オイル	3.5ℓ×2	初期 20 時間 以降、100 時間毎
③マストフレーム回動部	グリース	適量	作業前後
④油圧シリンダ回動部	グリース	適量	作業前後
⑤成形板アーム回動部	グリース	適量	作業前後
⑥ユニバーサルジョイント各部	グリース	図示	8 時間毎





⑥ユニバーサルジョイント給油各部

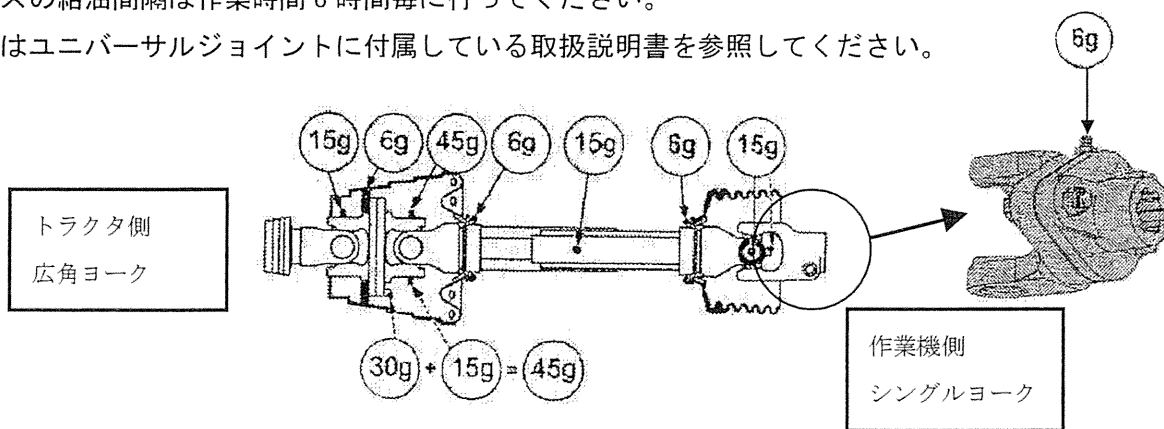
下図にグリースニップル位置を図示します。

各ヨーク部、カバー部、シャフトスライド部に注油してください。

グラム数はグリース注入目安です。1ストローク=約3g（ご使用になるグリースガンによって異なります）

グリースの給油間隔は作業時間8時間毎に行ってください。

※詳細はユニバーサルジョイントに付属している取扱説明書を参照してください。



◎廃油処理について

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などには、絶対に捨てないでください。
環境汚染につながります。

廃油の処分方法については、販売店にご相談ください。

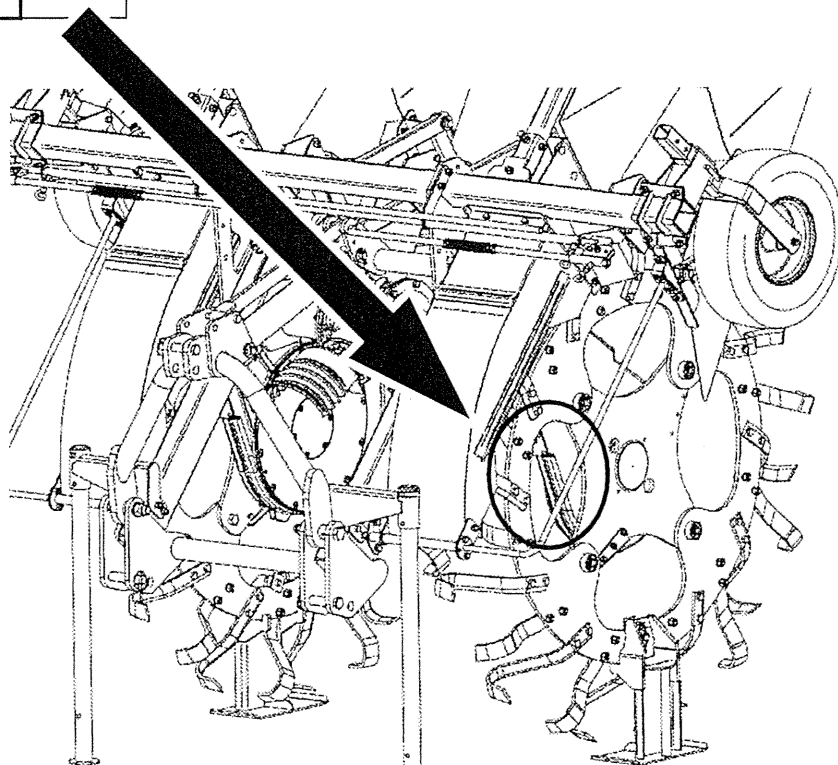
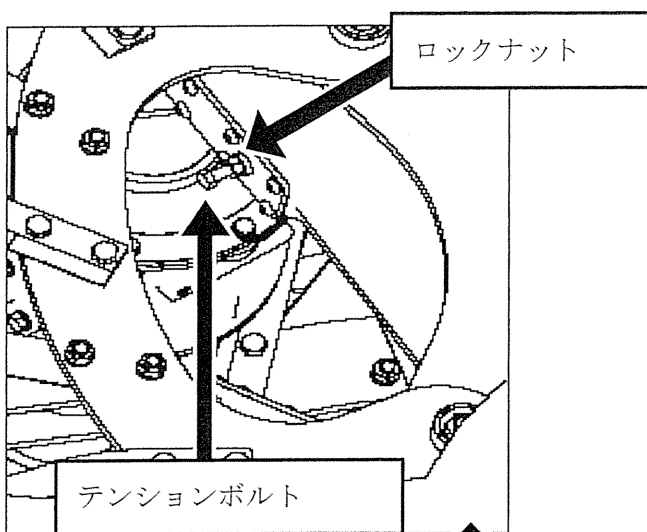
◎チェーンの点検・張り調整

チェーンケースからチェーンの音が発生しはじめた場合は、チェーンの張り調整をおこなってください。

⚠ 注意

- 点検・調整時には必ずエンジンを停止してください。守らないとけがをする恐れがあります。
- 周りに人や障害物が無いことを確認してください。
- トラクタのエンジンをかけるときには、周りに人がいないことを確認してから行ってください。

- I. チェーンケースの前側にテンション調整用ボルトがあります。
- II. ロックナットを緩め、テンションボルトを指で回して締め込める所まで締めて、その位置から1/2回転緩めてください。
- III. その位置でロックナットを締め、ロックしてください。

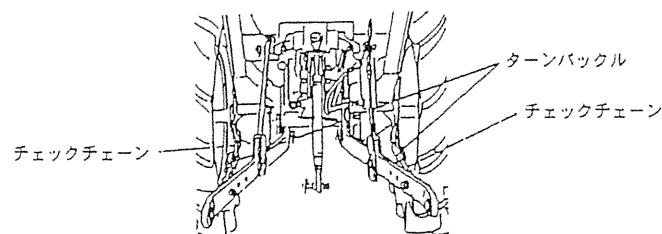


作業前の調整

トラクタに本機を装着した後、次の調整を行ってください。

1. チェックチェーンの調整

本機を少し持ち上げ、P T O軸、ジョイント及び入力軸が、トラクタの中心線上にあるようにチェックチェーンを、左右均等に張ってください。その後左右のチェックチェーンの、ターンバックルを1/2～1回転くらい逆に戻し、ロックしてください。



2. ゲージホイールの高さ調整

耕うん深さの目安を決めます。

①ステアゲージホイールとブラケットを固定しているピンを抜きます。

- ・ ピンを抜く際にディスクが半分以上、土中に入っている状態にすると調整しやすくなります。
- ・ 重さでゲージホイールが抜け落ち、怪我などが無いように注意して作業してください。

②ピンの取り付け穴の位置を、深耕したい位置に合わせて、ピンを差し込み固定します。

(ゲージホイールが、一番持ち上がる穴位置が、120cmの深さになります。)

3. トップリンクの調整方法

トラクタに作業機を装着し、圃場で作業姿勢を調整します。

- ① トラクタに作業機を装着し、パイプスタンドとディスクスタンドを外します。
- ② ブレードが、地面すれすれの位置に下がるまで、トラクタの3点リンクを下ろします。
- ③ P T Oを入れ、エンジン回転を1200回転くらいにして、ゆっくりと本機の油圧シリンダを伸びきるまで、伸ばします。(この時点でゲージホイールの高さ調整をしてください。)
- ④ トラクタの3点リンクを、ゲージホイールが地面につく位置まで下げ、ゆっくりと前進します。
- ⑤ 1～2m前進し、その時にフレームが地面と水平になるように、トップリンクの長さを調整します。
ロワリンクピン位置が地面から30cmで耕深が120cmとなります。

⚠ 注意

- トラクタの3点リンクは、必要以上に下げないで下さい。下げすぎるとゲージホイールが地面にめり込んで、深さが一定に保たれません。
- 長さ調整が終わったら、必ずトップリンクのロックナット等でロックしてください。守らないと、ネジが外れて事故を起こす恐れがあります。

4. 左右水平の調整

本機を少し持ち上げ、左右水平になるようにトラクタのリフトロッド長さを調整してください。

5. 最上げ位置の規制

作業機をゆっくりと持ち上げ、トラクタの一部に当たらないように、「上げ規制」が必要な場合があります。

トラクタの取扱説明書にしたがい、上げ規制を行ってください。

6. バランスウェイトの装着

作業機を装着してトラクタの前輪が浮き上がるような場合はトラクタにフロントウェイトを装着して、前輪の浮き上がりを防止してください。

注意

- トラクタのエンジンをかけるときには、周りに人がいないことを確認してから行ってください。

7. 異音のチェック

P T Oを低速で回転させて、ギヤボックス、チェーンケース内および動力伝達系統から異音が生じていないことを確認してください。

運転・耕うん作業について

◎移動と圃場への出入りのしかた

1. 圃場へ移動するときは、トラクタのポジションレバーで作業機を上げてください。
(トラクタによっては、キャビンのリヤウィンドウと干渉する場合があります。ポジションレバーの上げ規制をおこなってから操作してください。)
2. トラクタの油圧を確実にロックし、チェックチェーンがしっかり張って横振れしないことを確認してから走行してください。

警告

- 運転者以外の人や荷物をトラクタや作業機に乗せてトラクタを運転しないでください。
守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

3. 圃場への出入りは、直角に行い、前進で安全な速度（変速位置の低速等）でおこなってください。
高低差の大きい急斜面の登り降りや、溝超え、あぜ越えが必要な場合は、十分な強度のあるあゆみ板（傾斜が15°以下になる長さ）を使用し、確実に固定してから低速でおこなってください。
4. 坂の登りは、トラクタの前部が浮き上がり危険です。フロントウェイトを装着し、作業機はできるだけ下げて登ってください。

◎作業上の注意

警告

- 本機を装着すると、前後バランスが変わります。
発進時・登坂時トラクタの前輪が浮く場合は、フロントウェイトを取り付けてください。
- 作業中は作業機に、人を近づけないでください。
特に、子供には注意してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- エンジンを停止するとき、必ず作業機を下ろしてから停止してください。
エンジン始動時に、作業機が急に下がることがあるので危険です。
- 2人以上で作業をする場合は、お互いに合図をし、確認し合って安全に作業してください。
特にトラクタのエンジンをかける時や、エンジンが作動している間は、十分注意してください。
- からみついた草等を取る場合は、トラクタのエンジンを停止してください。
エンジンをかけたままですと、巻き込まれてケガをする恐れがあります。
- 点検整備をする場合は、平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。
トラクタが動きだして、ケガをする恐れがあります。
- 格納は平坦な場所に、保管してください。
特にキャスターを付けていると、動きだしてケガをする恐れがあります。
- 適応トラクタの範囲内で、使用してください。
適応範囲内のトラクタでも、発進時・登坂時にトラクタの前輪が浮き上がる場合は、フロントウェイトを装着してください。思わぬ事故を、引き起こす恐れがあります。
- 圃場から出るときに、前輪が浮き上がる場合は、転倒する恐れがあるので、無理をせずに後進で出てください。その後、フロントウェイトを、装着してください。

1. P T Oクラッチの接続は、エンジン回転数を必ず下げた状態で接続し、エンジン回転が安定しましたらゆっくりとエンジン回転数を上げてください。
2. 異音が発生した場合は、直ちにP T Oクラッチを切り、エンジンを停止してから点検・処置してください。異常がある場合は「**トラブルの原因と処置方法**」【29ページ】をお読みください。
3. 逆転P T Oは、使用しないでください。
4. 運転者が運転席を離れる時は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
5. 作業中、補助作業者がいる場合は機械から20m以上離れて、作業してください。
(機械周囲に絶対人を近づけないこと、人が近づいたらすぐに作業を中止すること)

◎作業のしかた

作業前に圃場の状況を必ず確認してください。特に、地表の凸凹や段差・異物がないか、危険なところがないかなど安全に作業できることを確認してから作業してください。周囲に人や動物がいないことを確認してから作業してください。

警告

- 作業前・作業中は、必ず圃場のまわりに人がいないことを確認し作業ください。
守らないと飛散物をぶついたりして、重大な事故をおこすおそれがあります。

注意

- つる状の草、マルチシート、ひも状など長い物は、軸等に巻きつきやすいので作業前に、ほ場からとりのぞいてから作業ください。
守らないと、巻きつきにより重大な事故をおこすおそれがあります。

1. トラクタの作業速度は、通常 0.3～0.6 km/h の速度で作業してください。

警告

- PTO 2 速以上での作業は、絶対にしないでください。
守らないと、重大な事故・機械の破損をおこすおそれがあります。

2. PTO 回転数は、通常 1 速 (PTO 450～540 rpm) で使用してください。
3. 圃場条件によりトラクタのエンジン馬力が不足気味のときは、車速を一段から二段下げて、トラクタや作業機に負担をかけない作業をしてください。
4. 耕深は、ゲージホイールの高さを上下させ調節してください。(25 ページ)

警告

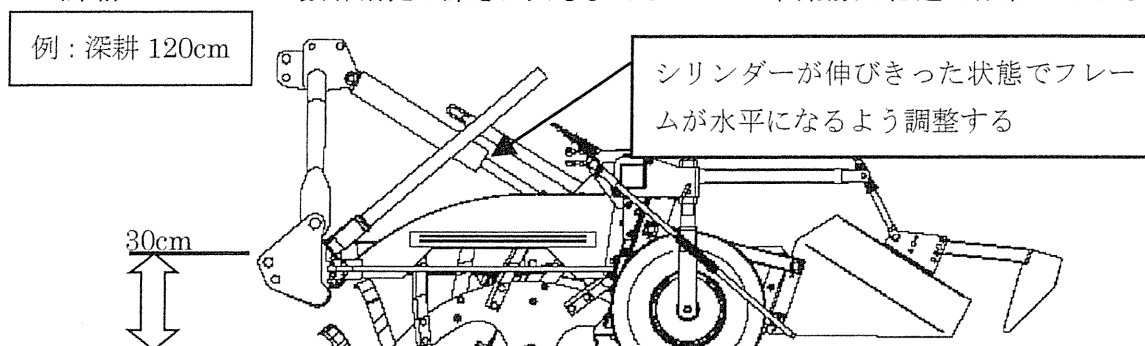
- 調整する際は、トラクタのエンジンを停止し、調整してください。
守らないと体を挟んだりぶついたりして、重大な事故を起こす恐れがあります。

5. 作業時、トラクタのエンジンの回転数が急に下がったときなどは、異常なことがおこっていることが考えられます。ただちに PTO クラッチを切りエンジンを止めてから作業機を点検し原因を取り除いてください。(トラブルの原因と処置方法【29 ページ】を参照してください)

◎耕うん作業方法

耕うん手順

1. 耕うん開始場所へ移動したら、ブレードが地表面スレスレになるまで3点リンクを静かに下げてください。
2. PTO変速レバーを1速にセットし、安全を確認してからホイールをゆっくり回転させてください。
3. ホイールが1/4ほど土中に入るまで、3点リンクを下げます。
4. トラクタの外部油圧レバー、またはサブコントロールレバーを操作し、本機の油圧シリンダを伸びきるまで伸ばします。
5. 3点リンクを下げていき、ロアリンクが地表から30cmくらいになるまで下げます。
(深耕120cmの場合)所定の深さに入るまではエンジン回転数は低速で作業してください。



- ・ シリンダが最も伸びた状態でフレームが水平になるよう、トップリンクの長さを調整してください。【20ページ】
 - ・ ゲージホイール取り付け穴を変更し、調整してください。【25ページ】
 - ・ マーカー等を所定の長さまで出し固定してください。【26ページ】
6. 作業姿勢が出来たら、PTO軸回転数を540rpmまでゆっくりと上げて、作業速度は0.3～0.6km/hでまっすぐに走行し作業してください。
 7. 耕うんが終了したら、PTOを止め、トラクタの外部油圧レバー、またはサブコントロールレバーでシリンダを縮めてから、3点リンクを上げてください。
 - ・ 作業機が上がりにくい場合は、ゆっくりとPTOを回しながら操作すると上げやすくなりますが、ずっと回したまま上げないでください。掘削ディスクが半分ほど地表に出るまでを目安として、PTOを止めてください。(ジョイント破損の原因になります)
 - ・ 周りの安全を確認して、必要以上にPTOを回さないでください。
 8. 旋回等の移動をする場合は、ブレードやディスクを引きずったり、マーカーをぶついたりしないように注意して次の操作を行ってください。(機械の破損原因になります)

作業条件に応じた各部の調整

警告

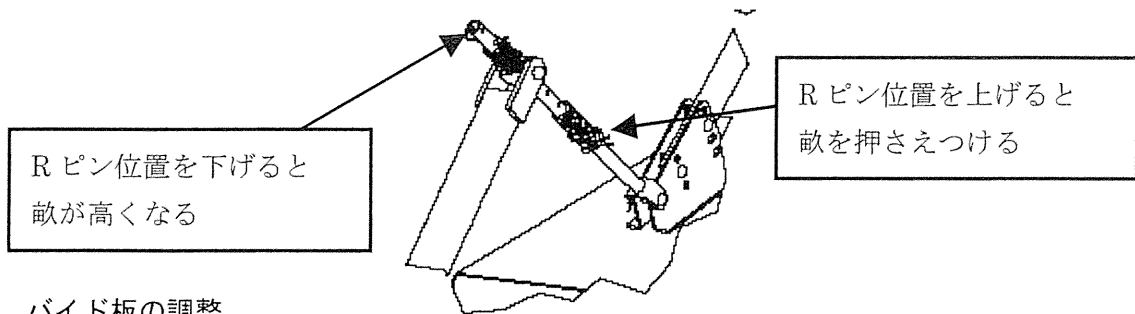
- 調整する際は、トラクタのエンジンを停止し、調整をおこなってください。
守らないと体を挟んだりぶついたりして、重大な事故を起こす恐れがあります。

2. 深耕深さ、トップリンクの調整

- ・ 本作業機は、ロアリンクピンの高さが地表から30cmの時、深耕120cmになるよう設定されています。この状態でシリンダが伸びた状態のとき、本体フレームが水平になるようにトップリンク長さを調整して作業をおこなってください。

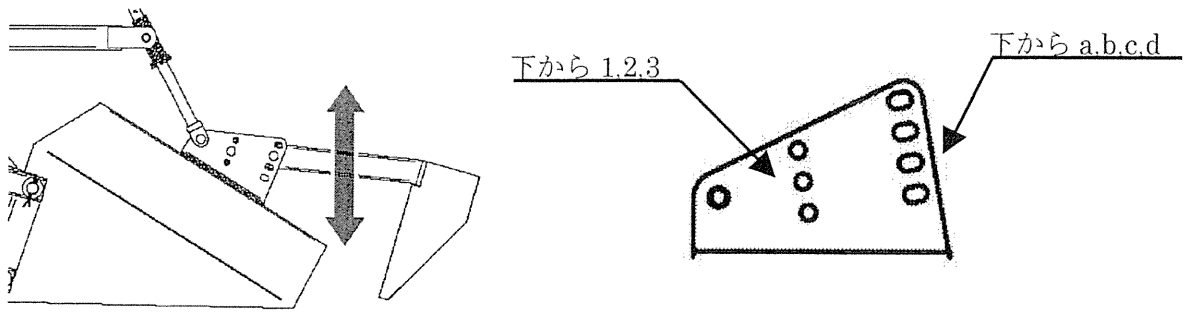
3. フォーミングプレートの調整

- ・ 作業姿勢にした状態で、バネがフリーになるようにロッドのRピン位置を調整してください。土の状態、畝の高さに応じて、Rピンとバネの位置を変えて、調整をおこなってください。

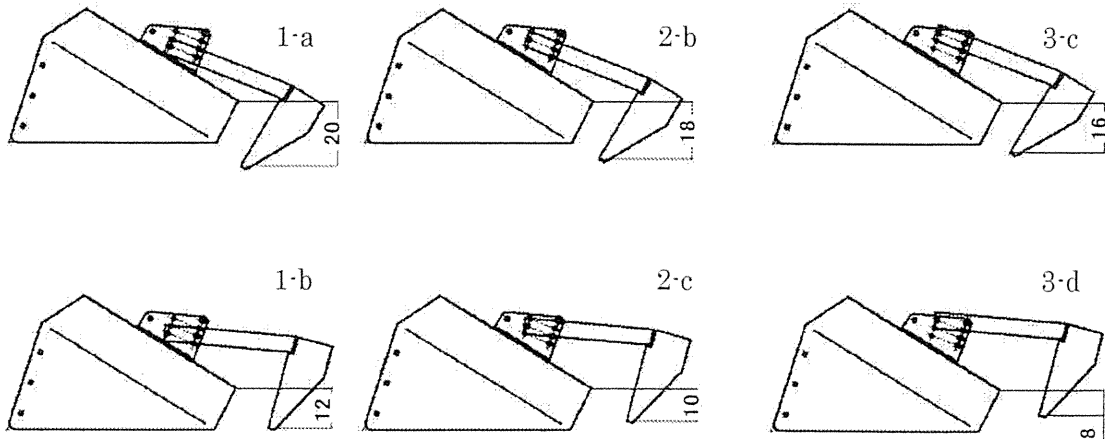


4. バイド板の調整

- ・ 高さを6段階で調整をおこなえます。作業にあわせて位置を調整してください。

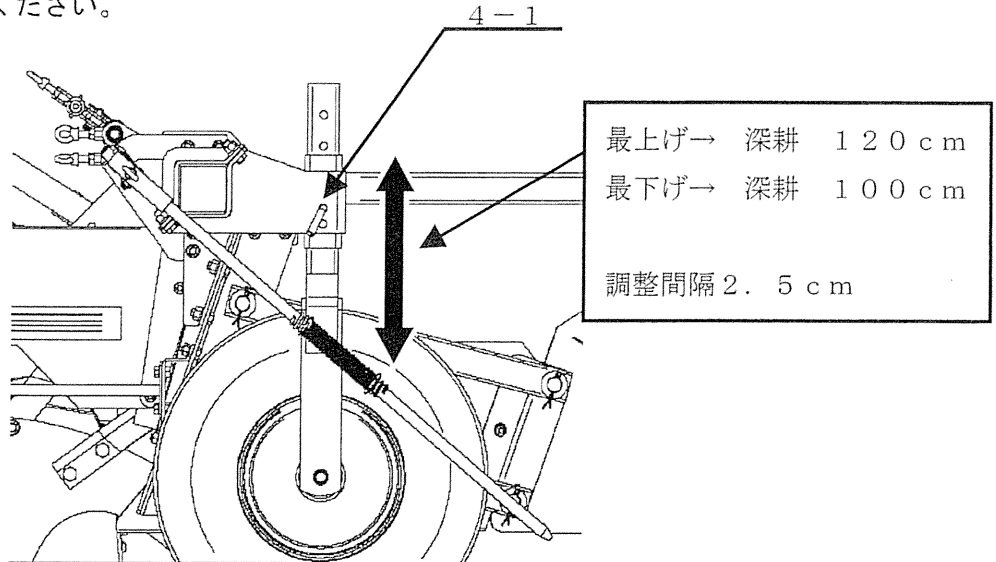


うね上面からバイド先端までの深さ (単位: cm)



5. ゲージホイールの高さ調整

- ・ 深耕作業姿勢の調整が出来たら、ゲージホイールのピン（下図4-1）を外し、高さ調整をおこなってください。
- ・ タイヤが地面に着く高さが一番近い穴にピン（4-1）を通して高さを決め、Rピンを差し込み、固定してください。



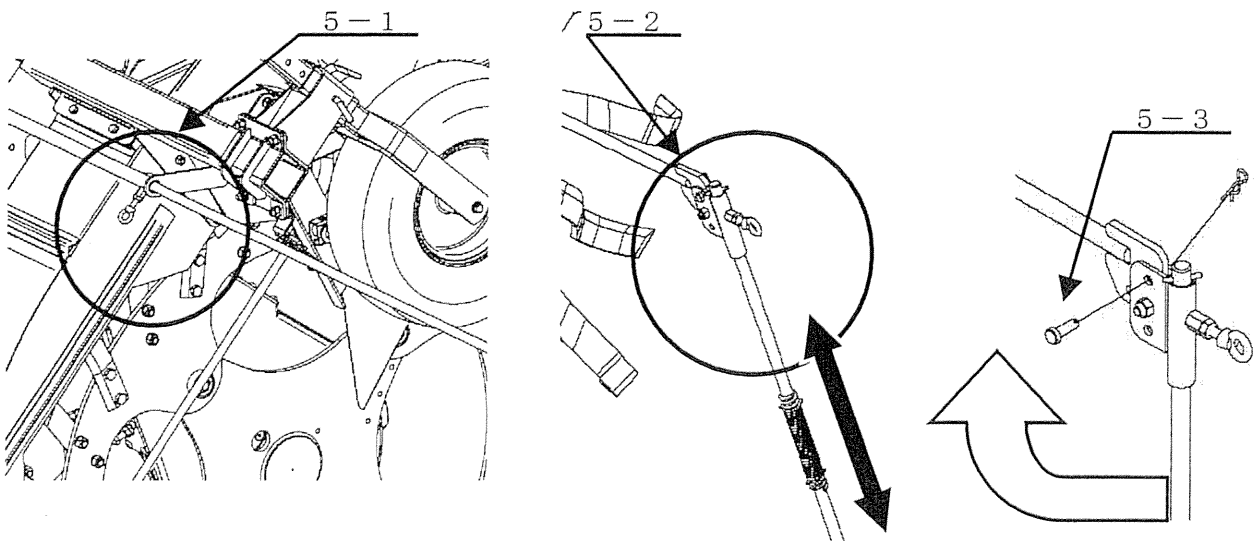
6. マーカーの調整

作業姿勢の調整をおこなった後、下記の操作を行ってください。

マーカーを出した状態で、移動等は行わないでください。

マーカーを出して作業する場合は、周りに注意して作業してください。

- ・ アイボルトとロックナット（下図5-1）を緩め、マーカーを任意の場所まで伸ばします。（最長、作業機のセンターから2.4mまで伸ばすことができます）
- ・ マーカー先が真下を向く位置でアイボルトとロックナット（5-1）を固定します。
- ・ アイボルトとロックナット（5-2）を緩め、マーカー先を地面に押し付ける強さを決め固定します。（下げると強く押し付けられます）
- ・ アイボルトとロックナット（5-2）を締め、位置を固定します。
- ・ マーカーを収納するときは、ピン（5-3）を外し、折りたたみをして収納してください。（作業機のフレームよりも外に出ないように収納して移動等を行ってください。）



ユニバーサルジョイントの安全装置

⚠ 危険

- ユニバーサルジョイントの作業をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと巻き込まれて、死傷事故を起こす恐れがあります。
- 機械の下に潜り込んでの作業は行わないでください。死傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 警告

- 作業をする時は、平坦で固い場所でおこなってください。2人で作業をする時は、お互いに合図しあって、注意して作業してください。

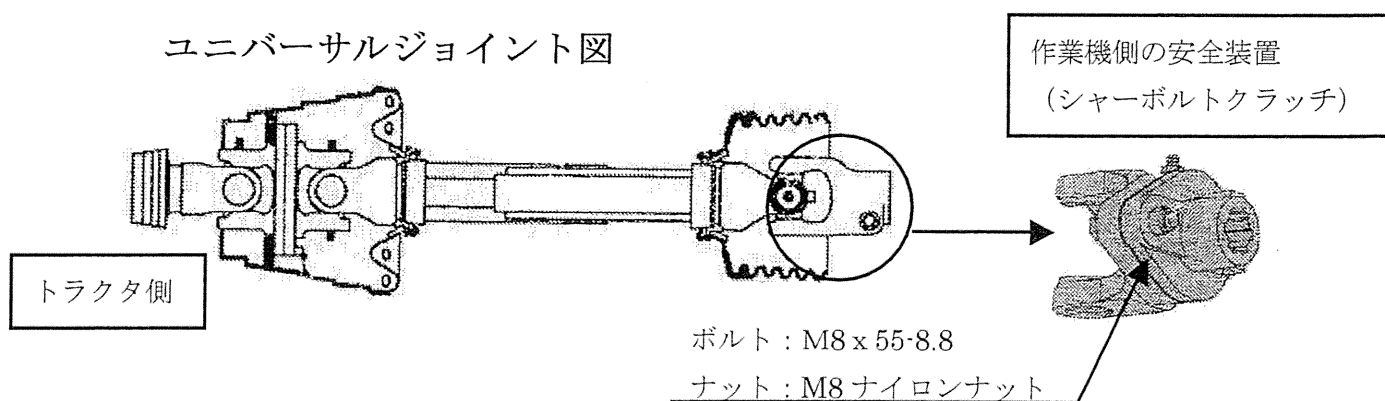
本作業機に付属しているユニバーサルジョイント（WB1-811000-0）には、安全装置が付いています。掘削部に過負荷を生じた場合、シャーボルトが切断される事により、動力の伝達を遮断し、機械の破損を回避するようになっています。

シャーボルトが切断された場合、過負荷の原因を取り除いてから純正シャーボルトで交換してください。

純正部品

商品コード	名称	規格
WB1-811000-0	ユニバーサルジョイント	ワルターシャフト製
WB1-751200-0	シャーボルト	M8 x 55-8.8
01580-08000	ナイロンナット	M8

ユニバーサルジョイント図



保守管理について

◎ 作業シーズン中

作業終了後、水洗いをしてボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落を確認・補充をし、給油・注油してください。

雨ざらしや洗浄機・水道ホース等での水洗いはしないでください。

◎ 作業シーズン終了後

水洗い・乾燥・補修塗装・給油・塗油等を行い、破損部品・脱落部品がある場合は、早めに部品交換・修理を行ってください。格納は、湿気・埃がなく平坦で安全な場所に安定させて保管してください。

消耗部品一覧

消耗部品はササキ純正部品をご使用ください。

番号	名称	商品コード	使用個数		規格
			HT7110	HT7120	
①	ローラーチェーン(100-62)	WB1-115600-0	2	2	#100-62
②	ブレード (WB 1-L 1)	WB1-141200-0	12	12	
③	ブレード (WB 1-L 2)	WB1-141400-0	12	12	
④	ブレード (WB 1-R 1)	WB1-141300-0	12	12	
⑤	ブレード (WB 1-R 2)	WB1-141500-0	12	12	
⑥	ボルト	W44-118100-0	96	96	M14 (専用ボルト)
⑦	バネザガネ	01702-14000	96	96	M14
⑧	ナット	01500-14000	96	96	M14
⑨	スクレーパL	WB1-417200-0	1	1	
⑩	スクレーパR	WB1-417100-0	1	1	
⑪	ボルト	01012-10030	6	6	M10x30-7T
⑫	バネザガネ	01702-10000	6	6	M10
⑬	ナット	01501-10000	6	6	M10-6T

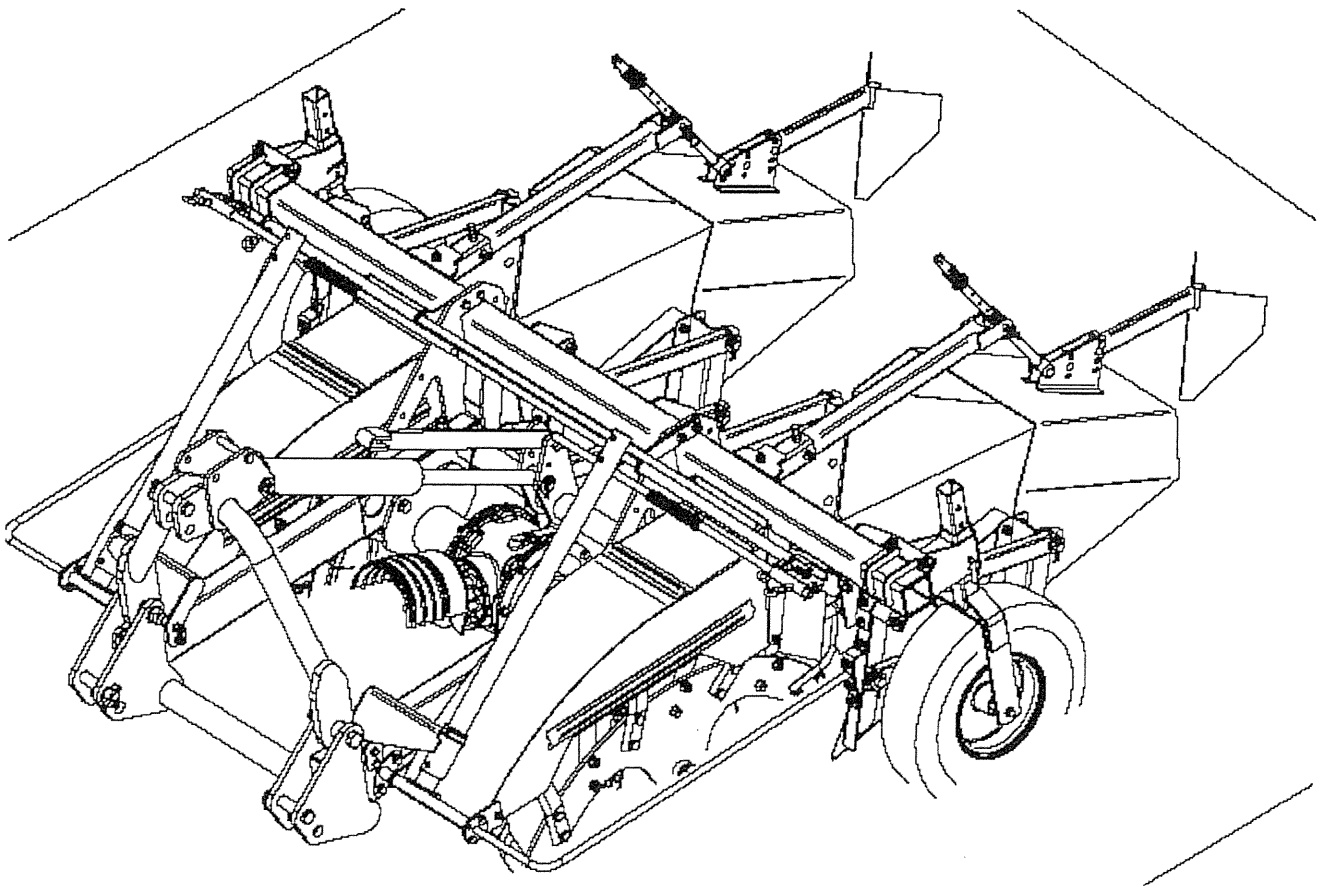
(使用個数は一台に使用されている個数)

トラブルの原因と処置方法

	現象	原因	処置	ユーザー	販売店
ジョイント	異音発生	ヨーク部のグリース不足	グリース給油	○	○
	ジョイント鳴り	ジョイントに角度が付きすぎている	3点リンクの上げ規制 (リフトロッドの穴位置変更)	○	○
		作業機の上げすぎ	(トップリnkの穴位置変更)		
	振動発生	ジョイントの取付けが逆	広角側がトラクタ側になるようにする。	○	○
		チューブのラップ量不足	長いジョイントへ交換	○	○
最上げ時のジョイント角度のつきすぎ		トップリnkで調整して振動がなくなるようにする。	×	○	
ギヤケース	オイル漏れ	オイルシールの損傷	オイルシール交換	×	○
		廃油口のシールの劣化	シール座金の交換	○	○
		締付けボルトの緩み	ボルトの増締め	○	○
	異常発熱	オイル量不足	オイル補給。	○	○
		オイルシールの損傷によるオイル漏れ	オイルシール交換	×	○
ロータの空回り	シャフトの切損	シャフトの交換	×	○	
チェーンケース	異音発生	テンションがゆるい	チェーンの張り調整をする。	○	○
	ロータの空回り	チェーンが切れている	チェーンの交換	×	○
ロータ	耕うん不良	ツメの磨耗	ツメの交換	○	○
		ツメが逆向き	ツメの向きを正しく組み付ける	○	○

主要諸元

型式	装着の種類		適応トラクタ KW(PS)	機体寸法 (mm)			重量 (kg)	条間 (cm)	最大深 耕深さ (cm)	耕幅 (cm)	作業速 度 (km/h)
				全長	全幅	全高					
HT7110	日農工 標準3 点リン ク2形 直装		51.5~77.2 (70~105)	2,700	2,500	2,225	925	110	120	18	0.3~ 0.6
HT7120							930	120			



MEMO

MEMO

購入日

年

月

日

型式

シリアル番号



株式会社
ササキコーポレーション

ホームページ <http://www.sasaki-corp.co.jp>

本社・工場／〒034-8618 青森県十和田市里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111 FAX 0176-22-8607
営業部／〒034-8618 青森県十和田市里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170 FAX 0176-25-3127
部品窓口／〒034-8618 青森県十和田市里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170 FAX 0176-25-3171
北東北営業所／〒034-0001 青森県十和田市里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354 FAX 0176-23-9655
仙台営業所／〒981-1201 宮城県名取市北原東180	TEL 022-382-4877 FAX 022-384-1641
関東営業所／〒329-0201 栃木県小山市栗宮1241-9	TEL 0285-45-8911 FAX 0285-45-8910
長岡営業所／〒954-0124 新潟県長岡市中之島1982-13	TEL 0258-66-0888 FAX 0258-66-0988
岡山営業所／〒702-8002 岡山県岡山市桑野110-2	TEL 086-274-9508 FAX 086-274-9510